

頁数	2014必携	2015必携
P66	<p>7. 監督の選択権について</p> <p>(1)野手が不正用具でプレイしたとき。 (3-3項<効果>3項、P34)</p> <p>(2)不正交代をしたプレイヤーが守備のプレイをしたとき。 (4-7項<効果>7項、P44)</p> <p>(3)不正投球を打者が打ったとき。 (6-1項~7項<効果>1~7項、P59)</p> <p>(4)不正投手が投球した球を打者が打ったとき。 (6-12項<効果>12項、P62)</p> <p>(5)捕手が打撃妨害をしたとき。 (8-1項4<効果>4、P73)</p>	<p>7. 監督の選択権について</p> <p>(1)野手が不正用具でプレイしたとき。 (3-3項<効果>3項、P34)</p> <p><u>(2)再出場違反したプレイヤーが守備でプレイをしたとき。</u> <u>(4-6項3<効果>3項、P45)</u></p> <p><u>(3)無通告交代をしたプレイヤーが守備でプレイをしたとき。</u> <u>(4-7項<効果>7項、P46~47)</u></p> <p><u>(4)打者が不正投球を打ったとき。</u> <u>(6-1項~7項<効果>1~7項、P61~62)</u></p> <p><u>(5)不正投手が投球した球を打者が打ったとき。</u> <u>(6-12項<効果>12項、P64)</u></p> <p><u>(6)捕手が打撃妨害をしたとき。</u> <u>(8-1項4<効果>4、P75)</u></p>
	※改訂理由 昨年度のルール改正に伴い、修正すべき点が漏れていた。(2)を追加し、ルールに合わせ文書整理をおこなった。	
P75	<p>打球の判定 ファウルボール コール・シグナル</p> <p>球審は打球の方向を向き、両手を開いて高く挙げ “ファウル”とコールする。 墨審は打球の方向を向き、両手を開いて高く挙げ “ファウル”とコールする。(前の墨に走者がいる審判員のみ同調のゼスチュアをして走者をとめる)</p>	<p>打球の判定 ファウルボール コール・シグナル</p> <p>球審は打球の方向を向き、両手を開いて高く挙げ “ファウル”的コールとゼスチュアをする。 <u>(前の墨に走者がいる審判員のみ同調のゼスチュアをして走者をとめる)</u></p>
P75	※改訂理由 文書を分かりやすく整理し直した。	
P75	<p>外野飛球 (フェア)アウト コール・シグナル</p> <p>捕球したときは“アウト”的コールとゼスチュアをする 捕球しなかったときは、フェア地域のときはセーフのシグナルを、ファウル地域のときは“ファウル”とコールする。</p>	<p>外野飛球 (フェア)アウト コール・シグナル</p> <p>捕球したときは“アウト”的コールとゼスチュアをする 捕球しなかったときは、フェア地域のときはセーフのシグナルを、ファウル地域のときは“ファウル”的コールとゼスチュアをする。</p>
	※改訂理由 文書を分かりやすく整理し直した。	
P79	<p>守備と走墨 セーフ 姿勢と構え</p> <p>フォースプレイは離れて、タッチプレイは近づいて見る。 送球を見定めて良い位置をとり、手を軽く握って膝に置いて腰を落とし、停止して構え、プレイを注視する。</p>	<p>守備と走墨 セーフ 姿勢と構え</p> <p>フォースプレイは離れて、タッチプレイは近づいて、<u>送球を見定めて良い位置をとり、手を敷く擦って太腿の付け根付近において腰を落とし、停止して構え、</u>プレイを注視する。</p>
	※改訂理由 文書を分かりやすく整理し、判定に備える姿勢と構えの手を置く位置を「膝」から「大腿の付け根付近」に変更した。	
P84	<p>打撃妨害 オプストラクション コール・シグナル</p> <p>プレイの成立後、必要があれば“タイム”的コールとゼスチュアをし、適切な処置をする。</p>	<p>打撃妨害 オプストラクション コール・シグナル</p> <p>プレイの成立後、<u>状況により“タイム”的</u>コールとゼスチュアをし、適切な処置をする。</p>
	※改訂理由 文書の整理・統一走墨妨害(オプストラクション)の項目と文書表現を統一した。	
P84	<p>走墨妨害 オプストラクション コール・シグナル</p> <p>プレイが一段落したのち、「タイム的」のコールとゼスチュアをし、適切な処置をとる。</p>	<p>走墨妨害 オプストラクション コール・シグナル</p> <p>プレイが一段落したのち、<u>状況により“タイム的”</u>のコールとゼスチュアをし、適切な処置をする。</p>
	※改訂理由 文書の整理・統一打撃妨害(オプストラクション)の項目と文書表現を統一した。	
P86	<p>走墨違反 ラインアウト 姿勢と構え</p> <p>野手がタッチしようとしたとき、走者が墨間を結ぶ直線から0.91m以上逃げたかどうかを見極める。</p>	<p>走墨違 反ラインアウト 姿勢と構え</p> <p>野手がタッチしようとしたとき、走者と墨を結ぶ直線から0.91m以上逃げたかどうかを見極める。</p>
	※改訂理由 ラインアウトの判定基準をより明確にするため、文書の整理を行った。	
P96	<p>10. インターフェアランス</p> <p>(3)ボールデッドのシグナルを示したのち、“ボールデッド”とコールする。</p>	<p>10. インターフェアランス</p> <p>(3)<u>“ボールデッド”</u>のとコールとゼスチュアをする。</p>
	※改訂理由 文書整理・表現の統一	